

## 【臨床・研究】

## 3歳, 5歳児の肥満度と国際基準と日本のBMI パーセンタイルチャートのcutoff値の比較

いずみ 泉                      のぶ お 夫

キーワード：幼児, 肥満度, BMIパーセンタイル, IOTF, WHO

---

### 要 旨

小児の肥満の判定は, 世界的にはBMIパーセンタイルが, 日本では健診など実地上は肥満度が用いられる。肥満度の重要な欠点は集団内の位置が不明であり, また, 同じcutoff値の重症度が年齢層で異なり, 特に幼児期で実感に乏しいことと考える。

3歳と5歳において, 身体発育曲線の3rdから97thの間の身長について身長体重曲線から肥満度15%, 20%, 30%の体重を読み取り, BMI値をもとめ, IOTFとWHOの国際的および日本の肥満判定cutoff値と比較した。

幼児の肥満度20%は, 日本の成人の肥満とされるBMI25相当を明らかに超えている。肥満度30%は, 成人のBMI30相当を明らかに超え, WHOの+3SDにも匹敵する。「ぽっちゃり」した外観になる前の防止, 更なる進行の防止や治療に真摯に取り組む必要がある。

---

### はじめに

体重は体脂肪量と相関するが, 身長とも強く相関する。そこで, 肥満の評価には体重の身長による補正が必要であり, その補正法として様々な指標が開発された<sup>1)</sup>。

成人では, 日本も含め, 世界的に体重(kg)を身長(m)の二乗で割って補正するbody mass index (BMI)を使用する。

小児でも, 1994年に発足のthe International

Obesity Task Force (IOTF; 国際肥満特別委員会)は1997年に世界の小児・思春期の肥満の評価に最も適正な指標としてBMIを採択した<sup>2)</sup>。小児では, BMIの中央値は出生時の13 kg/m<sup>2</sup>から乳児後半の17まで増加後, 4~6歳頃の15.5まで減少し, そこから18歳の21へ再増加, と変動する<sup>3,4)</sup>。したがい, 小児では, 可能なら“肥満流行”前の, 多数の小児の測定結果を基に各月齢, 年齢毎のパーセンタイル(P)値を求め, チャートを作成する。

米国では2000年にCDC BMIチャートが作成され, 2007年に専門委員会は日常診療での肥満の判定に2歳以上ではBMIを計算しチャートにプ

---

Nobuo IZUMI

出雲市立総合医療センター小児科  
連絡先：〒613-0003 出雲市灘分町613  
出雲市立総合医療センター小児科